

## 令和 5 年度 北海道地区会議事業報告

事業名	実施日時	場所	事業内容
地区会議運営協 議会の開催	令和 5 年 5 月 2 9 日 (月)	北海道大学	議題 (1) 令和 5 年度日本学術会議 北海道地区会議学術講演会につ いて (2) 日本学術会議サイエンス カフェの実施について
	令和 5 年 7 月 2 1 日 (金)	文書開催	議題 (1) 日本学術会議北海道地区 会議学術講演会「人間と野生生 物の共生のためにー北海道の最 新研究と実践ー(仮題)」の開催 について
	令和 6 年 3 月	文書開催	議題 (1) 令和 6 年度日本学術会議 北海道地区会議事業計画(案) について 報告 (1) 令和 5 年度日本学術会議 北海道地区会議事業実施報告 について
学術講演会の開 催	令和 5 年 1 1 月 1 8 日(土)	北海道大学 (ハイブリッ ド開催)	テーマ 「人間と野生生物の共生のため にー北海道の最新研究と実践 ー」 詳細は別添のとおり (参加者 196 名)
サイエンスカフ ェの開催	令和 6 年 3 月 6 日 (水)	三省堂書店札 幌店(札幌市)	テーマ 「血管研究の先に見えるもの」 詳細は別添のとおり (参加者 13 名)
地区会議ニュー スの発行 (No. 54)	令和 6 年 3 月		No. 54 を発行し、北海道地区の 日本学術会議会員・連携会員及 び教育研究機関等へ配付

近年、ヒトの活動域と野生動物の生息域間において、「Human-Wildlife-Conflict (HWC)」すなわちヒトと野生動物の軋轢が問題となっています。北海道には多くの大型野生動物が生息しており、他地域に比較しても北海道特有のHWC問題を抱えています。一方で、One Health若しくはOne Welfareは、ヒトだけの健康や福祉ではなく、野生動物を含む動物や環境の健康や福祉も一体のものとして考えるコンセプトです。本シンポジウムでは、北海道におけるHWCのフロントランナーに、北海道における野生動物課題と共生のための道筋について講演をしていただき、最新の情報を共有します。

# 人間と野生生物の共生のために —北海道の最新研究と実践—



参加費無料

どなたでも参加いただけます

## プログラム

- 13:30~13:35 開会の挨拶
  - 13:35~14:00 **講演1「クマとの衝突はなぜ増えているのか？」**  
坪田 敏男(北海道大学・大学院獣医学研究院・教授)
  - 14:00~14:25 **講演2「増え続ける北海道のシカとの共生のために」**  
稲富 佳洋(北海道立総合研究機構工ネルギー・環境・地質研究所  
自然環境部生物多様性保全グループ・主査)
  - 14:25~14:50 **講演3「ゼニガタアザラシの管理を考える」**  
小林 万里(東京農業大学・生物産業学部・教授)  
(14:50~15:00 休憩)
  - 15:00~15:25 **講演4「トドの問題を探る」**  
服部 薫(水産研究・教育機構水産資源研究所・グループ長)  
磯野 岳臣(水産研究・教育機構水産資源研究所・主任研究員)
  - 15:25~15:50 **講演5「アライグマ問題の今後」**  
池田 透(北海道大学・大学院文学研究院・教授)
  - 15:50~16:20 **パネルディスカッション**  
進行 石塚真由美(日本学術会議連携会員、  
北海道大学大学院獣医学研究院教授)
  - 16:20~16:25 閉会の挨拶
- 座長 宇山 智彦(日本学術会議第一部会員、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授)  
渡辺 雅彦(日本学術会議第二部会員、北海道大学大学院医学研究院特任教授)

2023年  
**11月18日** 土  
13:30~16:25

北海道大学学術交流会館

(札幌市北区北8条西5丁目)  
※Zoomウェビナーからも配信



※駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用下さい。

## 参加申込

**事前参加申込制**  
参加を希望される方は、11月16日(木)までに下記URL又は右のQRコードからお申し込み下さい。  
URL: <https://forms.gle/h1u1S1unYP9E98ReA>



## お問い合わせ先

日本学術会議北海道地区会議事務局  
(北海道大学 研究推進部 研究振興企画課)

Tel : 011-706-2155・2166 Fax : 011-706-4873  
E-mail : [suishin\\*general.hokudai.ac.jp](mailto:suishin*general.hokudai.ac.jp)  
(上記 mail アドレスの\*マークを@に変えてお送りください。)

2024

3/6

[Wed] 18:30~

第 35 回三省堂サイエンスカフェ in 札幌

CoSTEP シリーズ 19

要申込み



## 血管研究の先に見えるもの

私たちの体に欠かせないライフライン、血管。大事であることは分かっていますが、その仕組みや働きについて、より詳しく知りたい時があります。パンデミックを経て、病気に関する関心も、自分の健康を守ることへの関心も高まっています。

今回のカフェでは、世界に先駆けて血管研究を進めている樋田京子さんをゲストにお迎えします。血管の状態は、病気の悪化や進展につながります。たとえば血管の老化は動脈硬化や脳梗塞などの疾患の発症につながります。また、がんなどの病気で血管を新たに作る「血管新生」は、腫瘍に栄養や酸素を運びがんの増殖に重要な働きをします。COVID-19 の重症化にも血管が関わっていることがわかっています。樋田さんは、私たちのからだにとって大切な働きをし、また病気にも深く関係している血管について、COVID-19 からがんまで幅広く研究を行い、病気の治療法の開発を目指しています。

血管研究の最先端の話を通して、血管研究から見えてくるその先のシーンを、みんなで考えていきましょう。



樋田 京子 (ひだ・きょうこ) さん

北海道大学大学院歯学研究院 教授 / 日本学術会議第二部会員

歯学博士 (北海道大学)。北海道歯学部卒、ハーバード大学医学部、北海道大学歯学研究科、遺伝子病制御研究所等を経て 2018 年より現職。この間、日本病理学会学術研究賞、日本女性科学者の会奨励賞等を受賞。腫瘍血管内皮細胞に着目したがん治療や新型コロナウイルス感染症重症化に関する研究を行っている。



日時：2024 年 3 月 6 日 (水) 18:30-19:30

会場：三省堂書店札幌店内 ブックス & カフェ UCC  
(JR タワー札幌ステラプレイス 5F)



聞き手：朴 炫貞

北海道大学 CoSTEP 特任講師

主催：三省堂書店 札幌店

共催：北海道大学 CoSTEP

日本学術会議北海道地区会議

参加申込み：三省堂書店 札幌店まで

三省堂書店 札幌店までお電話ください。  
電話 011-209-5600

参加費：500 円

定員：30 名 (事前申込み制・先着順)

## 令和5年度 東北地区会議事業報告

事業名	時期	場所	事業内容
○科学者との懇談会及び公開学術講演会	令和5年 9月2日(土) 10:30~12:00  13:30~16:40	オンライン開催  オンライン開催 (後日オンデマンド配信済)	○科学者との懇談会 【テーマ】 任期付き雇用の研究者の状況把握と課題 (日本学術会議東北地区会議運営協議会委員と東北6県の研究者との懇談) ○公開学術講演会 【テーマ】 資源をめぐる新しい情勢および鉱山開発地域との対話 【講演者】 1. 渡辺 寧 (秋田大学 大学院国際資源学研究科 教授) 2. 稲垣 文昭 (秋田大学 大学院国際資源学研究科 教授) 3. 手塚 茂雄 (電源開発株式会社 火力エネルギー部地熱技術室 兼 再生可能エネルギー事業戦略部戦略室) 4. 阿部 和美 (二松学舎大学 国際政治経済学部 専任講師) 5. 中澤 秀雄 (上智大学 総合人間科学部 教授) ◇参加者 当日 約80名 オンデマンド配信 約100名
○第26期東北地区会議第1回運営協議会	令和5年 12月20日(水) 11:00~12:00	オンライン開催	委員改選に伴う開催 運営協議会委員の紹介及び令和5年度事業計画の進捗・予定の確認
○東北地区会議第2回運営協議会	令和6年 2月27日(火) 10:00~11:00	オンライン開催	令和5年度事業報告及び 令和6年度事業計画の審議
○地区会議ニュースの発行(No. 38)	令和6年 3月		運営協議会新任委員挨拶 公開学術講演会開催報告他

# 日本学術会議東北地区会議公開学術講演会

## 資源をめぐる新しい情勢および 鉱山開発地域との対話

資源をめぐる世界の情勢は、金属・エネルギー資源の確保といった問題から、現在のカーボンニュートラル社会の実現やロシアのウクライナ侵攻といった多様な世界的な情勢の変化を受けて、新しい局面を迎えつつある。一方で、鉱山開発による地域住民への影響あるいは労働者との社会的な関連にも配慮した資源開発がますます望まれるようになってきている。本講演会では、最近の資源の問題の変化と最新の情報に加えて、鉱山開発の社会的な側面をそれぞれの専門家から発信し、今後の持続可能な資源利用についてどのような方向性と課題があるかを、参加者とともに考えたい。

どなたでも参加  
いただけます

参加費  
無料

### 日時

令和5年  
**9月2日(土)**  
**13:30 ~ 16:40**

### 開催方式

**オンライン開催** ※事前登録制:  
先着500名  
(後日オンデマンド配信予定)

下記URLまたはQRコードより事前申込をお願いします。  
定員になり次第、受付は終了します。

[URL] <https://forms.gle/X624SPdUeT94JZiE8>



[申込締切]  
**8/27(日)**

### 次第

司会進行：安達 毅 (日本学術会議連携会員、  
秋田大学大学院国際資源学研究所 教授)

#### 1 開会挨拶 13:30 ~ 13:40

菱田 公一 (日本学術会議副会長)

佐藤 嘉倫 (日本学術会議第一部会員・東北地区会議代表幹事、京都先端科学大学人文学部長・教授)

#### 2 講演 13:40 ~ 16:20

13:40 ~ 14:10 カーボンニュートラル社会実現に必要なレアメタル

渡辺 寧 (秋田大学大学院国際資源学研究所 教授)

14:10 ~ 14:40 ロシアを巡る資源と政治

稲垣 文昭 (秋田大学大学院国際資源学研究所 教授)

14:40 ~ 15:10 日本の地熱発電の現状と開発事例 (山葵沢地熱発電所:秋田県)

手塚 茂雄 (電源開発株式会社 火力エネルギー部地熱技術室 兼  
再生可能エネルギー事業戦略部戦略室)

15:10 ~ 15:20

— 休憩 —

15:20 ~ 15:50 インドネシアにおける資源開発と住民

阿部 和美 (二松学舎大学国際政治経済学部 専任講師)

15:50 ~ 16:20 日韓台における石炭産業と地域

中澤 秀雄 (上智大学総合人間科学部 教授)

#### 3 質疑応答 16:20 ~ 16:35

#### 4 閉会挨拶 16:35 ~ 16:40

北川 尚美 (日本学術会議第三部幹事、東北大学大学院工学研究科 教授)

主催：日本学術会議東北地区会議

共催：国立大学法人東北大学

後援：公益財団法人日本学術協力財団、国立大学法人秋田大学、電源開発株式会社、二松学舎大学、上智大学

〈お問合せ先〉東北大学研究推進課 TEL: 022-217-4840 E-mail: kenkyo@grp.tohoku.ac.jp

## 令和5年度 中部地区会議事業報告

事業名	実施日時	場所	事業内容
<p>中部地区会議 運営協議会</p> <p>第1回</p>	<p>令和5年 7月7日</p>	<p>福井県 福井県立大学 (対面及びオンライン(ハイブリッド開催))</p>	<p>1) 中部地区会議運営協議会について</p> <p>2) 地区会議代表幹事の報告</p> <p>3) 学術講演会について</p> <p>4) 地区会議ニュースについて</p> <p>5) 令和4年度中部地区会議事業実施報告について</p> <p>6) 日本学術会議公開シンポジウムの開催に係る共催名義の使用について</p> <p>7) 次回地区会議の開催について</p>
<p>第2回</p>	<p>令和5年 12月15日</p>	<p>静岡県 静岡大学 (対面及びオンライン(ハイブリッド開催))</p>	<p>1) 中部地区会議運営協議会について</p> <p>2) 地区会議代表幹事の報告</p> <p>3) 学術講演会について</p> <p>4) 地区会議ニュースについて</p> <p>5) 令和6年度中部地区会議事業実施計画について</p> <p>6) 次回地区会議の開催について</p>
<p>科学者懇談会各県 幹事との打合せ会</p> <p>第1回</p>	<p>令和5年 7月7日</p>	<p>福井県 福井県立大学 (対面及びオンライン(ハイブリッド開催))</p>	<p>1) 科学者懇談会について</p> <p>2) 科学者懇談会新会員の加入及び幹事の交代について</p> <p>3) 令和4年度科学者懇談会収支について</p> <p>4) 日本学術会議第187回総会の報告について</p>

第2回	令和5年 12月15日	静岡県 静岡大学 (対面及びオンライン(ハイブリッド開催))	5) 学術講演会の進め方について  1) 科学者懇談会について 2) 科学者懇談会新会員の加入について 3) 日本学術会議第188回、189回総会の報告について 4) 学術講演会の進め方について
学術講演会			
第1回	令和5年 7月7日	福井県 福井県立大学 (対面及びオンライン(ハイブリッド開催))	テーマ 「食と健康の最前線」 詳細は別紙のとおり (参加者359名)
第2回	令和5年 12月15日	静岡県 静岡大学 (対面及びオンライン(ハイブリッド開催))	テーマ 「微生物がつなぐ文理融合研究 ー野生酵母クラフトビールと地域振興ー」 詳細は別紙のとおり (参加者153名)
地区会議ニュース の発行			
No.154	令和5年 11月		発行部数495部
No.155	令和6年 3月		発行部数494部(予定)

# 食と健康の最前線

## 福井県立大学 講堂

福井県吉田郡永平寺町松岡兼定島4-1-1

【バス】JR福井駅西口バスターミナル1番のりば [27・37・38系統] 県立大学・大学病院行き  
いずれも「県立大学」下車(所要時間:38系統 約40分)

アクセ  
セス

### 対面・オンラインによるハイブリッド開催

参加希望の方は6/30(金)までに下記URLまたはQRコードより  
【申込方法】申し込みください。  
なお、オンライン視聴希望の方は、先着500名までといたします。



<https://forms.gle/65JVwT8ukUXFio2L6>

令和5年

7/7 金

13:00▶16:20

現代人の大きな関心に食と健康の問題がある。日本の食料自給率は36%程度で先進国とよばれる国の中では最低で、国内の生産者の高齢化のため農業や水産業の持続性自体が危機に陥っている。このような危機的な状況にありながら、高齢化社会の到来とともに食に対する関心は非常に高く、味だけでなく、栄養価、安全性、経済性などもその評価に加わっている。そのため、農学や水産学の分野では、いかに健康価値の高い、収益性のある食品をつくることができるかに、大きな関心が集まっている。そのためには、農学や水産学だけでなく、育種学や遺伝学、さらには栄養学や健康学なども加わり、様々な分野が融合して新しい学問分野を切り開くための研究が進みつつある。本シンポジウムでは、食と健康に焦点をあて、新しい研究の進展を紹介する。

13:00▶13:05

#### 開会挨拶

福井県立大学学長 岩崎 行玄

13:05▶13:15

#### 日本学術会議会長挨拶

日本学術会議会長 梶田 隆章 (日本学術会議会長・第三部会員、東京大学宇宙線研究所・教授)

13:15▶13:25

#### 主催者挨拶

日本学術会議中部地区会議代表幹事 池田 素子 (日本学術会議第二部会員、名古屋大学大学院生命農学研究科教授)

13:25▶13:35

#### 科学者との懇談会活動報告

中部地区科学者懇談会幹事長 松田 正久 (同朋大学学長)

13:35▶16:15

#### 福井県立大学でのイネ育種への挑戦

～地方大学で遺伝子研究は役に立てるのか?～

三浦 孝太郎 (福井県立大学生物資源学部教授)

学術講演会

#### 魚類特有のIgT抗体の粘膜免疫制御と養殖産業への応用

瀧澤 文雄 (福井県立大学海洋生物資源学部准教授)

#### 健康につながる食行動を促進する要因の解明

～食べる力・生きる力を育むためのヒント～

小島 亜未 (福井県立大学看護福祉学部教授)

16:15

#### 閉会挨拶

松原 宏 (福井県立大学地域経済研究所特命教授)



お問い合わせ

●日本学術会議中部地区会議事務局 (名古屋大学研究協力部研究企画課内)  
TEL: 052-789-2039 FAX: 052-789-2041  
●福井県立大学  
TEL: 0776-68-8298 FAX: 0776-61-6013

主催 日本学術会議中部地区会議

共催 福井県立大学

後援

公益財団法人日本学術協力財団

<https://www.scj.go.jp/ja/area/index.html>

# 微生物がつなぐ文理融合研究 — 野生酵母クラフトビールと地域振興 —

人は古代より微生物を利用し、酒、パン、漬物などの発酵食品を生み出し食生活を豊かにしてきた。近年、日本各地の小さな醸造所でクラフトビールの製造が行われ、地域の特徴を活かした個性ある商品が開発されている。本講演では、静岡大学と地元自治体、地元企業の産官学で協働して行っているクラフトビールプロジェクト、その他の発酵食品、発酵飲料開発への取り組みを紹介する。生物学、歴史学、経済学、倫理学等の文理融合総合知を動員し、歴史的価値のある寺社や史跡、地域住民に愛される自然豊かな地域から野生酵母を単離しそれを活用することで、ストーリー性のある魅力的な地域の特産品を生み出し地域振興を目指している。これまでの本活動を通して得られた意義と課題、それを踏まえた今後の展望を議論したい。

## 静岡大学 大学会館

静岡県静岡市駿河区大谷836

令和5年

12/15 金

13:00 ▶ 16:00

アクセス

JR静岡駅北口のしずてつジャストラインバス8B番乗り場から美和大谷線「静岡大学」行き、「東大谷」(静岡大学経由)行き、「ふじのくに地球環境史ミュージアム」(静岡大学経由)行きに  
乗車し「静岡大学」又は「静大片山」で下車。

### PROGRAM

13:00 ▶ 13:10

◆ 開会挨拶

静岡大学長 日詰 一幸

13:10 ▶ 13:20

◆ 日本学術会議会長挨拶

日本学術会議会長 光石 衛

(日本学術会議会長・第三部会員、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構理事、東京大学名誉教授)

13:20 ▶ 13:30

◆ 主催者挨拶

日本学術会議中部地区会議代表幹事 高田 広章 (日本学術会議第三部会員、名古屋大学未来社会創造機構教授)

13:30 ▶ 13:40

◆ 科学者との懇談会活動報告

中部地区科学者懇談会幹事長 松田 正久 (同朋大学学長)

13:40 ▶ 16:00

学術講演会

◆ 野生酵母による発酵飲料・発酵食品開発

Ⓐ 野生酵母に学ぶ多様な微生物世界

丑丸 敬史 (静岡大学大学院理学領域生物科学系列教授)

Ⓑ 地域の野生酵母が生んだ予想外の展開

木村 洋子 (静岡大学大学院農学領域応用生命科学系列教授)

歴史研究と物語性 一家康公クラフトを一例として

松本 和明 (静岡大学大学院人文社会科学領域人間・社会系列准教授)

日本におけるクラフトビールツーリズムの可能性

横濱 竜也 (静岡大学大学院人文社会科学領域法学系列教授)

16:00

◆ 閉会挨拶

司会 日本学術会議中部地区会議運営協議会委員 久木田 直江 (静岡大学名誉教授)

入場  
無料

どなたでも  
参加できます

### 対面・オンラインによるハイブリッド開催

参加希望の方は、12月8日(金)までに下記URLまたはQRコードより事前申し込みをお願いいたします。  
定員になり次第、事前申し込みの受付は終了いたします。

<https://forms.office.com/r/wNSqUywQwy>



お問い合わせ

● 日本学術会議中部地区会議事務局 (名古屋大学研究協力部研究企画課内)

TEL: 052-789-2039 FAX: 052-789-2041

● 静岡大学

TEL: 054-238-4316 FAX: 054-238-4312

主催 日本学術会議中部地区会議

共催 静岡大学

後援 公益財団法人日本学術協力財団

<https://www.scj.go.jp/ja/area/index.html>

## 令和5年度 近畿地区会議事業報告

### ■日本学術会議近畿地区会議学術講演会

テーマ：「女性の活躍から未来を考える」（オンライン・対面併用開催）

日時：令和5年9月9日（土）13:00～17:00

主催：日本学術会議近畿地区会議、京都大学

後援：公益財団法人日本学術協力財団

参加者数：約200名（うちオンライン約140名）

#### <プログラム>

開会挨拶：望月 眞弓（日本学術会議副会長、日本学術会議第二部会員、慶應義塾大学名誉教授）  
時任 宣博（京都大学理事、副学長）

趣旨説明：高山 佳奈子（日本学術会議近畿地区会議代表幹事、日本学術会議第一部会員、京都大学大学院法学研究科教授）

#### 【講演】

招待講演：「不平等社会の中で対等な生き方を求めた日本中世の女性たち」  
田端 泰子（京都橘大学名誉教授）

最先端研究の紹介：

講演 1：「“世界初”に挑戦するということ」

高橋 政代（日本学術会議連携会員、株式会社ビジョンケア代表取締役社長）

講演 2：「微細遺物から歴史の謎を解く」

宮路 淳子（日本学術会議連携会員、奈良女子大学研究院人文科学系教授）

講演 3：「遺伝情報を活用して野生動物を絶滅から守る」

村山 美穂（日本学術会議第二部会員、京都大学野生動物研究センター教授）

ジェンダー論に関する講演：

「ジェンダード・イノベーション～ジェンダー視点は学術研究を変えることができるか～」

伊藤 公雄（日本学術会議連携会員、京都産業大学現代社会学部現代社会学科客員教授）

パネル討論：

パネリスト：上記講演者に加えて、岡本 優芽（京都大学大学院理学研究科学生）

岡田 侑里英（大阪大学工学部学生）

コーディネータ：小山田 耕二（日本学術会議第三部会員、大阪成蹊大学データサイエンス学部学科長・教授）

京都の女性学長からのメッセージ：

「ジェンダー平等の実現に向けて：京都女子大学の挑戦」

竹安 栄子（京都女子大学学長）

全体総括：三成 美保（日本学術会議連携会員、追手門学院大学法学部教授）

総合司会：宮地 充子（日本学術会議第三部会員、大阪大学大学院工学研究科教授）

### ■日本学術会議近畿地区会議運営協議会・学術文化懇談会

日時：令和6年3月6日（水）開催

議題：学術文化懇談会の会員について

令和5年度事業報告について

令和6年度事業計画について

令和6年度近畿地区会議学術講演会について 他

■地区会議ニュースの発行 (No. 33)

令和6年3月

発行部数 1,000部

日本学術会議  
近畿地区会議  
学術講演会

事前参加  
申込制  
どなたでもご参加  
いただけます。

参加費  
無料

ハイブリッド  
開催

# 女性 の 活躍 から 未来 を 考 え る

2023

9.9 [土] 13:00 ~ 17:00

京都大学国際科学イノベーション棟  
5階 シンポジウムホール(京都市左京区)

近年、ジェンダーの多様性と平等への関心が日本でも急速に高まっています。日本学術会議はこれに先がけて、女性構成員の割合を高め、また関連するさまざまな問題への取組を続けてきました。私たちの目指す未来社会は、単に人を男女に二分して女性を登用するといったものではなく、多様な個性を輝かせる基盤を持つ社会です。それへの足がかりの一つとして、本シンポジウムは、女性の活躍の歴史、最先端の女性研究者の現場、そしてジェンダーに関する最新の議論状況の紹介を企画しました。若い世代の方々の進路選択にも役立つことと存じます。オンラインでもご視聴になれますので、どの地域におられる方も、積極的なご参加をお願いします。

## お問合せ先

日本学術会議近畿地区会議事務局  
(京都大学研究推進部研究推進課内)

Tel: 075-753-2270 Fax: 075-753-2042

E-mail: scj-kinki@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

## 参加申込方法

参加を希望される方は、9月6日(水)までに下記URL  
またはQRコードより事前申込をお願いいたします。  
(対面・オンライン参加共通)

<https://forms.gle/wzmh6zKebAiA94yx8>

主催：日本学術会議近畿地区会議、京都大学  
後援：公益財団法人日本学術協力財団



## 開会挨拶

主催者代表 望月 真弓(日本学術会議副会長、日本学術会議第二部会員、慶應義塾大学名誉教授)  
主催者代表 時任 宣博(京都大学理事、副学長)

## 趣旨説明

高山 佳奈子(日本学術会議第一部会員、京都大学大学院法学研究科教授)

## 講演

招待講演 「不平等社会の中で対等な生き方を求めた日本中世の女性たち」  
田端 泰子(京都橋大学名誉教授)

## 最先端研究の紹介

講演1 「“世界初”に挑戦するということ」  
高橋 政代(日本学術会議連携会員、株式会社ビジョンケア代表取締役社長)  
講演2 「微細遺物から歴史の謎を解く」  
宮路 淳子(日本学術会議連携会員、奈良女子大学大学院人文科学系教授)  
講演3 「遺伝情報を活用して野生動物を絶滅から守る」  
村山 美穂(日本学術会議第二部会員、京都大学野生動物研究センター教授)

## 講演

ジェンダー論に関する講演 「ジェンダードイノベーション  
～ジェンダー視点は学術研究を変えることができるか～」  
伊藤 公雄(日本学術会議連携会員、京都産業大学現代社会学部現代社会学科客員教授)

## パネル討論

上記講演者に加えて、  
コーディネータ：小山田 耕二  
(日本学術会議第三部会員、大阪成蹊大学データサイエンス学部学科長・教授)

## 京都の女性学長からのメッセージ

「ジェンダー平等の実現に向けて：京都女子大学の挑戦」  
竹安 栄子(京都女子大学学長)

## 全体総括

三成 美保(日本学術会議連携会員、追手門学院大学法学部教授)

## 総司会

宮地 充子(日本学術会議第三部会員、大阪大学大学院工学研究科教授)

## 令和5年度 中国・四国地区会議事業報告

事業名	実施日時	場所	事業内容
・ 学術講演会	令和5年 11月25日	島根大学 (ハイブリット開催)	<p>学術講演会：「地方大学の持続可能な開発目標[SDGs]へのアプローチ」</p> <p>開会挨拶（以下敬称略）</p> <p>1) 日比谷 潤子（日本学術会議副会長）</p> <p>2) 大谷 浩（島根大学理事（SDGs、研究推進担当））</p> <p>講演趣旨説明</p> <p>山本 達之（日本学術会議連携会員、島根大学生物資源科学部 教授）</p> <p>講演</p> <p>1) 「地球環境の限界、人新世とエスチュアリー」 齋藤 文紀（日本学術会議連携会員、島根大学エスチュアリー研究センター長、特任教授）</p> <p>2) 「人口減少時代における well-being に満ちた子ども政策の可能性」 宮本 恭子（日本学術会議連携会員、島根大学法文学部 教授）</p> <p>3) 「たたら製鉄の歴史を引き継ぐ『材料エネルギー学部』新設」 三原 毅（島根大学材料エネルギー学部長 特任教授）</p> <p>4) 「大学発ベンチャー『PuREC』の低phosphatase 症に対する再生医療研究」 松崎 有未（島根大学医学部 教授、PuREC 株式会社代表取締役）</p> <p>5) 「地方から巻き込み力で次世代ワクチン開発に挑む」 浦野 健（日本学術会議連携会員、島根大学医学部 教授、新興感染症ワクチン・治療用抗体研究開発センター副センター長）</p>

<p>・第1回 地区会議運営協 議会</p>	<p>令和5年 11月25日</p>	<p>島根大学(ハ イブリット 開催)</p>	<p>まとめ 山内 泰子 (日本学術会議連携会員、川 崎医療福祉大学医療福祉学部医療福祉 学科 教授)</p> <p>閉会挨拶 坂田 省吾 (日本学術会議中国・四国地 区会議運営委員会委員 第26期代表幹 事)</p> <p>運営協議会： 1) 令和6年度公開学術講演会について 2) 令和5年度公開学術講演会について 3) 令和5年度地区ニュース (No. 55) に ついて 4) 地区会議の動向 (「学術の動向」) に ついて</p>
<p>・第2回 地区会議運営協 議会</p>	<p>令和6年 3月4日</p>	<p>広島大学(オ ンライン開 催)</p>	<p>運営協議会： 1) 令和5年度事業報告及び令和6年度 事業計画について 2) 令和6年度公開学術講演会について 3) 地区会議の動向 (「学術の動向」) に ついて</p>
<p>・地区会議ニュ ースの発行 (NO. 55)</p> <p>・地区会議の動 向 (「学術の動 向」) について</p>	<p>令和6年3月  年1回</p>		<p>中国・四国地区の日本学術会議会員・連 携会員及び教育研究機関へ配布</p> <p>1) 令和5年度公開学術講演会報告 ※令和6年1月号掲載</p>



# 地方大学の (SDGs) 持続可能な開発目標へのアプローチ

地球規模の温暖化や水危機、さらには医療革命や高齢化と低出生率による深刻な少子高齢化・人口減少など、様々な問題が顕在化し、それらへの解決策について議論が行われています。国内外における取り組みに加えて、地方大学でも問題解決に向けた活動が進んでいます。

この講演会では、地球環境、少子高齢化・人口減少、地方創生、再生医療、次世代ワクチン開発といった5つのテーマに焦点を当て、地方大学の取り組みや研究成果、最新のトピックについて紹介します。参加者の皆様と、アカデミアが持つ科学的な知識と俯瞰的・多面的視座から、持続可能な社会の実現に向けた新たな知見や解決策を共有し、議論を深めたいと考えています。

開催日時 ・ 会場	令和5年 <b>11月25日 (土)</b> 13:30～17:15	申込方法  定員となり次第、現地参加の受付は終了します	現地参加、Zoomによるオンライン参加とも11月21日 (火) までに下記URLまたは右のQRコードより、事前申し込みをお願いします。	
	島根大学 大学ホール 島根県松江市西川津町1060		<a href="https://forms.office.com/r/9CMLRwba84">https://forms.office.com/r/9CMLRwba84</a>	
参加無料	どなたでも参加いただけます 現地参加・会場定員 <b>100名</b>	申込をされた方には申込完了メールが届きます。届かない方は下記メールアドレスへご連絡願います。 <a href="mailto:rsd-chiiki(A)office.shimane-u.ac.jp">rsd-chiiki(A)office.shimane-u.ac.jp</a> ※(A)を@に変えて送信ください。		
Zoomによるオンライン配信も行います				

## 開会挨拶

13:30 ~ 13:45

日比谷 潤子 (日本学術会議副会長)  
大谷 浩 (島根大学理事 (SDGs、研究推進担当))

## 講演趣旨

13:50 ~ 13:55

山本 達之 (日本学術会議連携会員、島根大学生物資源科学部 教授)

## 「地球環境の限界、人新世とエスチュアリー」

齋藤 文紀 (日本学術会議連携会員、島根大学エスチュアリー研究センター長、特任教授)

## 「人口減少時代におけるwell-beingに満ちた子ども政策の可能性」

宮本 恭子 (日本学術会議連携会員、島根大学法文学部 教授)

15:05 ~ 15:20 (休憩)

## 「たたら製鉄の歴史を引き継ぐ『材料エネルギー学部』新設」

三原 毅 (島根大学材料エネルギー学部長 特任教授)

## 「大学発ベンチャー『PuREC』の低phosphatase症に対する再生医療研究」

松崎 有未 (島根大学医学部 教授、PuREC株式会社代表取締役)

## 「地方から巻き込み力で次世代ワクチン開発に挑む」

浦野 健 (日本学術会議連携会員、島根大学医学部 教授、新興感染症ワクチン・治療用抗体研究開発センター副センター長)

## まとめ

17:00 ~ 17:10

山内 泰子 (日本学術会議連携会員、川崎医療福祉大学医療福祉学部医療福祉学科 教授)

## 閉会挨拶

17:10 ~ 17:15

坂田 省吾 (日本学術会議中国・四国地区会議運営委員会委員 第26期代表幹事)

## お問い合わせ先

島根大学 研究・地方創生部 研究推進課  
TEL : 0852-32-9728  
E-Mail : [rsd-kenkyu@office.shimane-u.ac.jp](mailto:rsd-kenkyu@office.shimane-u.ac.jp)

※申込時にご記入いただきました個人情報は、本講演会の開催の運営管理の目的にのみ利用させていただき、その他の目的には一切使用いたしません。※駐車場がありませんので、公共交通機関をご利用ください。

主催：日本学術会議中国・四国地区会議，島根大学  
後援：島根県，松江市，出雲市



## 令和5年度 九州・沖縄地区会議事業報告

事業名	実施日時	場所	事業内容
運営協議会の開催	令和5年9月	書面回議	議題 日本学術会議 九州・沖縄地区会議主催 科学者懇談会・学術講演会の開催について
	令和6年3月	書面回議	議題 (1) 令和5年度事業報告(案)について (2) 令和6年度事業計画(案)について
「科学者懇談会」・「学術講演会」の開催	令和6年3月18日(月)	長崎大学 キャンパス内	日本学術会議と長崎大学との共催により開催した。 【科学者懇談会(非公開)】 磯副会長ほか、永安学長及び幹事会構成員等の合計24名が出席し、相川事務局長による日本学術会議の最近の活動状況の説明があり、意見交換等を行った。 【学術講演会(一般公開)】 ◇テーマ 「革新的技術の創出によって養殖(水産業)の未来を作る」 ◇演題・講演者 ・講演1「長崎大学が取り組む養殖改革研究の概要」 征矢野 清(長崎大学海洋未来イノベーション機構・教授) ・講演2「魚類由来新規生理活性物質の機能性と分子生物学的アプローチ」 平坂 勝也(長崎大学海洋未

			<p>来イノベーション機構・准教授)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講演 3「飼育環境制御による魚類の成長促進」</li> </ul> <p>福永 耕大 (琉球大学研究推進機構・特命助教)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講演 4「養殖ブリ・養殖クロマグロの肉質劣化機構」</li> </ul> <p>吉田 朝美 (長崎大学水産学部・准教授)</p> <p>◇参加者 167名</p>
日本学術会議九州・沖縄地区ニュースの発行	令和5年5月		<p>No. 121号を発行</p> <p>※令和4年度の活動報告</p>



ながさき  
BLUEエコノミー



COI-NEXT

令和6年 3月18日(月) 14:00~16:15

長崎大学文教スカイホール

長崎市文教町1-14

ハイブリッド開催 | 現地&オンライン

かつて我が国の主要産業の一つであった水産業は、資源量減少、環境変動、漁業従事者減少・後継者不足などにより、厳しい状況に置かれています。

水産業を魅力的な産業として再建するべく、とる漁業(漁船漁業)から育てる産業(養殖)への転換が必要です。そこで、共創の場形成支援プログラム(JST、R5年度より本格型)「ながさきBLUEエコノミー」海の食料生産を持続させる養殖業産業化共創拠点において、我が国における水産業の再生を目指すとともに、地域さらには我が国の活性化の一翼を担う産業となるための研究と技術開発を進めています。

本講演会では、現在の水産業における課題をはじめ、この事業に関連する若手研究者が進めている生物学上の最新研究の紹介や、最新の水産学、海洋工学、社会科学の分野を横断するイノベーションを紹介し、未来の水産業について共に考える機会とします。

Program

- 14:00-14:10 **開会挨拶** 磯 博康 日本学術会議副会長  
永安 武 長崎大学学長
- 14:10-14:55 **講演** ●長崎大学が取り組む養殖改革研究の概要  
征矢野 清 長崎大学海洋未来イノベーション機構・教授  
●魚類由来新規生理活性物質の機能性と分子生物学的アプローチ  
平坂 勝也 長崎大学海洋未来イノベーション機構・准教授
- 14:55-15:05 **休憩**
- 15:05-16:05 **講演** ●飼育環境制御による魚類の成長促進  
福永 耕大 琉球大学研究推進機構・特命助教  
●養殖ブリ・養殖クロマグロの肉質劣化機構  
吉田 朝美 長崎大学水産学部・准教授
- 16:05-16:15 **閉会挨拶** 内田 誠一 日本学術会議第三部会員、九州・沖縄地区会議代表幹事、九州大学院システム情報科学研究院・教授
- 司会進行** 近藤智恵子 日本学術会議連携会員、長崎大学工学部・教授

# 革新的技術の創出によって 養殖(水産業)の未来を作る

日本学術会議九州・沖縄地区会議学術講演会

「どなたでもご参加できます」

参加費 無料!

「お申し込みはコチラ!」

締切日  
令和6年3月8日(金)



**主催** 日本学術会議九州・沖縄地区会議  
**共催** 長崎大学  
**後援** 長崎県、長崎市、長崎総合科学大学、活水女子大学、高知大学、琉球大学、国立研究開発法人科学技術振興機構、公益財団法人日本学術協力財団

お問い合わせ先  
長崎大学 研究国際部 研究推進課  
〒852-8521 長崎市文教町1-14  
TEL.095-819-2878 FAX.095-819-2971